

北海道鹿追町 高齢者のクーリングシェルターへの送迎

- 車両は**公用車を使用し**、保健福祉課の職員による運転のもと、保健福祉課がおかれている鹿追町トリムセンター（クーリングシェルター）へ朝のうちに**送迎**。
- クーリングシェルターに行きたくても、猛暑の中避難することが難しいことを日頃より懸念している中、かつてない暑さになるとの予報が出たことにより、令和7年度に急遽実施した。
- 令和8年度からは、気温が35度以上になると予報がでたとき、熱中症警戒アラートおよび熱中症特別警戒アラート発表時との**実施基準を設け実施している**。
- 日頃より福祉サービスを使用していたり、ケアマネージャーが訪問している独居の高齢者など、**社会福祉協議会やケアマネージャーと情報を連携**し、対象者を決定している。



▲避難中のクーリングシェルター内の様子



▲災害用ダンボールベッドを使用した様子

■苦勞した点

- ・朝から夕方まで避難していると、避難者が時間を持て余してしまうことがある。
- ・保健福祉課の職員4名で対応しているため、今後送迎の必要な日が頻繁になると、同じように対応することが難しくなってくると予想される。お茶代や避難時の消耗品費等の捻出もより必要となることが懸念される。

■工夫した点

- ・クーリングシェルターがあっても来られないと意味がないとの思いを持ち、高齢者の安全のため、迅速な取り組み開始の決定を心掛けた。
- ・施設にあるほかのイベントで余った飲み物や菓子を提供、昼食代は持参いただいている。また、災害用のダンボールベッドを使用し、避難者が横になれるよう対応している。